

福井県優良図書

令和8年1月分

○ひろい海にぼくたちは生きている

長倉洋海 // 作
【幼児～】



アリス館 ¥1,980 (税込み)

地球をすっぽり包み込む海。三つの海をめぐりそこに暮らす人々の生活、子ども達の遊びを描いた一冊である。

東南アジアに広がるスルー海。体ひとつで海に潜って、魚や貝やエビなどをとって暮らす人々。

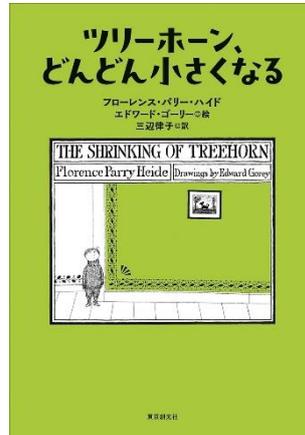
スルー海から東へ向かったそこはカピングマランギ環礁。自給自足の生活をしている赤道直下の小さな島だ。

スルー海から西に向かう海流にのるとアフリカのマダガスカル島に着く。異なる民族が境界をつくらず共に生きてきた、さまざまな人と文化を繋いだ海である。

様々な世代の方に読んで欲しい良書だと思います。

○ツリーホーン、どんどん小さくなる

フローレンス・パリー・ハイド // 著
エドワード・ゴーリー // 絵 三辺律子 // 訳
【小学校高学年～】



東京創元社 ¥1,980 (税込み)

主人公のツリーホーンの体が縮んで、どんどん小さくなっていくという話である。お母さん、お父さんに訴えるが、初めは信じてもらえない。しかし、やがて、本当だと気づき、どうしようと二人は悩む。それから、小さくなった主人公が、友達のモシー、スクールバスの運転手、学校の先生、校長先生等にとって、小さく縮んだが故のいろいろな体験をする。そして、自分の趣味のおかげで、元の体に戻っていく。奇想天外な話であるが、ごく普通の日常生活の中で物語は展開されている。日常と非日常が入り交じりながら、描かれているところがおもしろい。

○そうだったのか!カタツムリとナメクジ

嶋田泰子 // 著 はたこうしろう // 絵
【小学校低学年～】



童心社 ¥1,430 (税込み)

作家は、カタツムリとナメクジの観察日記を通し、ふたつの生物の違い、共通点を見つけ出していく。

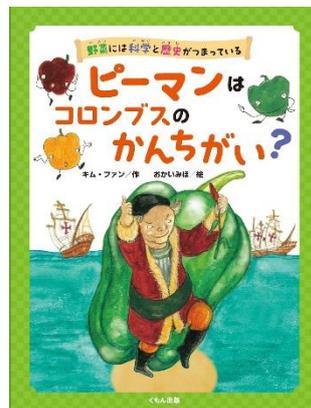
カタツムリの動く速度を知りたいという素朴な疑問から始まり、どのように命をつないでいくのだろうか、好奇心はどんどん広がる。

ひらがなと平易な漢字での文体で、挿絵も楽しく、低学年児童でも、興味をもって読むことが出来るだろうが、生殖メカニズムや食物連鎖、天敵といった内容を正しく理解するには、理科学習が進んだ高学年児童向けの読本かと思われる。

日々何気なく接する光景から、気づき生じる問いかけに、親子一緒になって考える時間が持てたら面白い。

○野菜には科学と歴史がつまっている

ピーマンはコロンブスのかんちがい?
キム・ファン // 作 おかひみほ // 絵
【幼児～】



くもん出版 ¥1,760 (税込み)

今から500年以上前、冒険家コロンブスは、コショウを求めて、スペインからインドへ買いつけに出ました。ところがコロンブスがたどり着いたのはアメリカ大陸。トウガラシをコショウと勘違いして持ち帰りました。ヨーロッパに渡ったトウガラシは、ホットペッパーやピマン、ペペロンチーノと各国違う呼び名で広がりました。トウガラシを食べやすくする為、ハンガリーではパブリカ、アメリカではピーマンが生まれました。

このコロンブスの勘違いでピーマンは世界に広がり、料理を彩り華やかにしています。コショウはどのように広がったのか調べたくなりました。

○カルディコット・プレイスの子どもたち

ノエル・ストレットフィールド // 作 尾崎愛子 // 訳

【小学生（高学年）～】



偕成社 ¥1,870（税込み）

ロンドンの郊外で幸せに生活していたジョンストーン一家だったが、父親が事故に遭ってしまい途方にくれていた。ところが、子どもたち三人が思いがけなく田舎の豪邸を相続することになり、そこでの出来事が楽しく語られている。優しい家の持ち主が、お金のない子どもたちと楽しく暮らす様子が心温かく語られている。読んでいて人の温もりを感じる物語である。

人の気持ちを大切にそしてその温かみを大切に周囲の人と接することの大切さを読み取ることができる。周囲の人と日々接して心温かきを感じる大切さを感じてほしい。

○あかりをひとつとしてみたら

クリスティ・マシソン // 文 アヌスカ・アレプス // 絵

ふしみみさを // 訳

【幼児～】



光村教育図書 ¥1,760（税込み）

本作品は、明かりが消えた町を前に「ひとりぼっち」になったような寂しさを感じたコトリちゃん、同じ思いをする人を少しでも減らしたいと願い、らんとんに火を灯して家の前に置くところから始まります。その小さな明かりを見た通行人が心を温められ、同じように自宅で明かりを灯すことで、やがて町全体へと明かりが連なっていきます。

子どもにも理解しやすい内容でありながら、現代社会における人と人とのつながりについて、大人にも改めて考える機会を与える作品であり、青少年の情操涵養に十分資する優良な絵本であると評価できます。

○イチからつくるピザ

小田原学 // 編 坂之上正久 // 絵

【小学生（低学年）～】



農山漁村文化協会
¥2,750（税込み）

ピザがどのように作られているのかを、小麦やチーズ、トマトなどの材料がどこから来て、どんな手順でピザになるのかを「イチから」わかりやすく紹介しています。さらに、ピザの成り立ちや食文化の歴史についての解説もあり、食べ物の人々のくらしとどのように関わってきたのかを学ぶことができます。

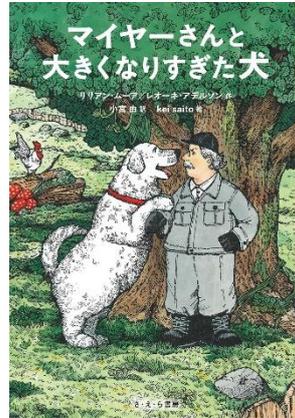
身近なピザを通して、「食とは何か」「作るとはどういうことか」を考えるきっかけを与えてくれる一冊です。ピザ生地の作り方は写真付きのレシピで丁寧に解説されており、親子で一緒に作る楽しさも味わえ、この本と一緒に調べ学習や自由研究をしてみてもどうでしょうか。

○マイヤーさんと大きくなりすぎた犬

リリアン・ムーア // 作 レオーネ・アデルソン // 作

小宮由 // 訳 kei saito // 絵

【幼児～】



さ・え・ら書房
¥1,650（税込み）

人間と犬が心を通わせる、楽しくて心温まる一冊です。ノンディ家の飼い犬「バターボール」は、どんどん大きくなって、大人と同じくらい成長します。人の役に立つことが大好きなのに、それが理由で思わぬトラブルを次々と起こしてしまい、問題のある犬を捕まえる捕獲人のマイヤーさんに連れていかれます。のら犬や飼い主に捨てられた犬を引きとるマイヤーさんは、町の人達に恐れられています。最後は、マイヤーさんの意外な素顔が分かり、登場する全ての人・犬がハッピーエンドとなります。

人の温かみ、生命の大切さも伝わってきます。

○しずかなよる

ジル・マーフィ // 作・絵 木坂涼 // 訳

【幼児～】



ひさかたチャイルド
¥1,650 (税込み)

ぞうパパの誕生日の朝、ぞうママは、4人の子どもたちに「今夜は早く寝て、パパをゆっくり静かに過ごさせてあげましょう。」と言います。早く寝ることに不満たらたらの子どもたちですが、カード作りやテーブルの飾りつけをしてパパを迎えます。でも、疲れて帰ってきたパパは、ソファにぐったり。子どもたちは、パパに本を読んで欲しいとせがみます。読み始めたパパですが、すぐに寝落ち。その続きをせがまれたママも寝落ちしてしまいます。

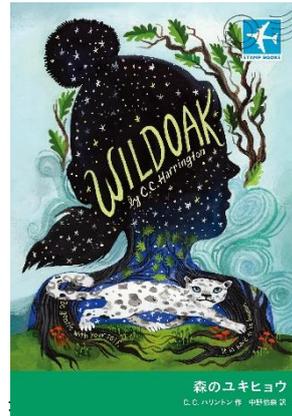
子育て中の親にとっては、「あるある」の情景で、やわらかな色調の絵と共に、家族の思いやりに親も子も心温まる絵本だと思います。

○森のユキヒョウ

C.C.ハリントン // 作

中野怜奈 // 訳

【小学生(高学年)～】



自然と人間の再生を重ねた物語である。吃音に悩む少女マギーがユキヒョウの子と出会い、森を守るために声を上げる。

マギーは人とうまく話せないことで苦しみ、孤独や劣等感を抱えながら日々過ごしている。不思議な力に満ちた太古の森で、ユキヒョウの子と運命的に出会う。言葉ではなく心で通い合う存在は、マギーにとってかけがえのない友となり、彼女の閉ざされた心を少しずつ解きほぐしていく。森は人間による開発や破壊が忍び寄り、ユキヒョウや木々の住処が失われようとしていた。マギーはうまく言葉にできないが、守りたいという思いが後押しし、声を振り絞り、声を上げる。

自らの弱さを抱えながら立ち上がる姿に読者は「声を上げる勇氣」に気付かされる。